NEW
書籍の売上は毎月、前年比で落ち込んでいる。とくに今年の8月の書籍売上は前年比6.7%減と、今年の中では最大の減少となった。ところが、今年はこれまでに、ミリオンセラーが続々と誕生している。大ヒットしたテレビドラマ『
半沢直樹
』の原作、
池井戸潤
『オレたちバブル入行組』
『オレたち花のバブル組』
（いずれも文春文庫）が累計
200
万部を超え、
百田尚樹
『永遠の
0
』
（
講談社文庫
）は
300
万部、近藤誠
『医者に殺されない
47
の心得』
が
100
万部に達した。漫画では『進撃の巨人』が累計
2500
万部に達している。

最近は、ミリオンセラーが2009年、2010年には各2作、それが2011年には突如7作（『謎解きはディナーのあとで』など）になったものの、昨年は『聞く力』１作だけだった。それが、今年は 4作を超え、これから暮れにかけてさらにミリオンになりそうな作品もある。

これは、「不況下の一人勝ち現象」で、どの業界でも起こっていることと同じか？
たとえばスマホならiPhone、電子書籍ならアマゾンというふうに。つまり、消費者は選択肢がありすぎると逆に選択をやめてしまい、みんなが買っているものしか買わなくなるからだろう。